

『難民に関するワークショップから難民問題・子どもと女性の権利・衣食住を考える』  
指導案

岩倉高等学校  
塚本美森

◇ 実施日・学年

- 2月9日（金）…2年普通科2クラス
- 2月14日（水）…2年普通科1クラス

◇ 育てたい生徒像とねらい

これまでの家庭基礎の授業では、リプロダクティブヘルス・ライツや子どもの権利、衣食住の機能、私たちの消費行動によって世界の誰かが犠牲になったり救われたりしていることなどについて学んできた。今回の特別授業では、喪失の疑似体験を通して難民問題を考えるワークショップに取り組み、子ども・女性の権利侵害を含めた難民問題についての理解を深めると共に、それを切り口として、衣食住が満足にあることへ改めて感謝したり、衣食住において厳しい生活を強いられている人たちのために自分たちが出来ることや自分たちの消費行動の影響を考えたりするきっかけとしたい。また、厳しい生活の中でも難民の人々がもっているものについても考え、これからの国際社会の中で、主体的に共生していく力を身につけさせたい。

◇ 関連する単元とキーワード ※教科書『新家庭基礎／実教出版』に準ずる。

- 自分らしい生き方と家族 - 2.自立した生き方,共に生きる人生  
- 「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（教 P.11）
- 子どもとかかわる - 5.すこやかに育つ環境 - 「子どもの権利条約」（教 P.51）
- 社会とかかわる - 3.地域社会の一員としてのボランティア活動  
- 「国際交流・国際協力」（教 P.69）
- 食生活をつくる（教 P.74～122）
- 衣生活をつくる - 1.人と衣服のかかわり（教 P.126）
- 住生活をつくる - 1.人と住まいのかかわり（教 P.152）
- 消費行動を考える - 3.消費者の権利と責任（教 P.181）

◇ 使用教材

- 教科書・プリント
- ワークシート①  
※国連 UNHCR 協会提供『いのちの持ち物けんさ』を本授業用に改変して使用
- ワークシート②

◇ 展開 ※30分×2時間

時配	展開	学習活動	教材・備考
10分	導入	・出欠をとり、導入として女性・子どもの権利や衣食住の機能の学習を振り返るように語りかけ、難民の話題を出す。	スライド
20分	展開①	個人ワーク「いのちの持ち物けんさ」 ①まず「いのち」と付箋に書いて貼る。(1分) ②それ以外のものについて赤・青・黄色の付箋に書いてどんどん貼っていく。(7分) ③青色の付箋をはがして裏に貼り、喪失した時の気持ちを書く。(2分) ④黄色の付箋を同様にはがす。(2分) ⑤「いのち」以外の赤色の付箋も、同様にはがす。(2分) ⑥班員で気持ちを共有する。(2分) ⑦何名かに班で共有された内容を発表してもらおう。(4分)	ワークシート① 付箋(赤・黄・青) タイマー  ※過去に喪失体験をしたことがある生徒や途中で辛くなった生徒は無理をしないよう伝える。 ※必ず黒色で書くようにする。
10分	休憩		
25分	展開②	グループワーク「その持ち物を守るために」 ①自分たちの気持ちを踏まえつつ、これまで学んだ「リプロダクティブヘルス/ライツ、子どもの権利条約、食生活の機能、衣生活の機能、住生活の機能、消費者の一票」の内容を思い出しながら、失いたくないものや必要なものを班で話し合い、ワークシート②に貼っていく。ただし各色3枚ずつまでとする。(5分) ②なぜ失いたくないか、必要か、緑色の付箋に理由を黒色で書いて、その付箋の近くにひたすら貼っていく。(3分) ③それらを失わないようにしたり、取り戻したり新たに得たりするためにはどのような支援が必要かを考え、赤ペンで付箋に書いてどんどん貼っていく。その際、①国や国連・社会ができること(赤色の付箋)、②私たち(高校生～大学生)が今できること(黄色の付	ワークシート① ワークシート②  付箋(緑)  付箋(赤・黄・青) 予備の赤ペン

		<p>箋)、③私たちが社会人になったらできること(青色の付箋)の3つの視点に分けて考える。(10分)</p> <p>④いくつかの班が前で発表する。(5分)</p> <p>⑤最後に、難民の人がもっていて私たちが持っていないもの・少ないものを考え、班員みんなで余白に書いていく。(2分)</p>	
5分	まとめ	・本時を振り返りプリントに感想を書く。	B 5プリント